

「千葉の農業盛り上げる」

斎藤農相に直接決意

アグリーダーちば
若手農家が結成

「千葉の農業を盛り上げる」。県内の若手農家7人が、農業経営のトップランナーとなり、農業の発展を目指す「アグリーダーちば」(実川勝之実行委員長)を結成し13日、農林水産省に斎藤健農相を表敬訪問した。メンバーは地域や組織の垣根を越え、チームとなって千葉の農業の課題に挑戦する一と力強く決意表明した。



斎藤農相(左から5人目)を訪問した「アグリーダーちば」メンバー=13日午後、東京・霞ヶ関の農水省大臣室

「アグリーダーちば」は先月24日、千葉の農業をリードしようと26〜47歳の若手農家7人で結成。先人の残した農業を受け継ぎつつも、最先端の情報を共有し合いながら、次世代に向けた農業経営の課題克服を目指していくという。

メンバーは、アグリスリーの実川勝之代表取締役

(山武、果樹・水稻・野菜)
 ▼芝山農園の篠塚佳典代表取締役社長(香取、露地野菜)
 ▼ジエリービーンズの内山知佳さん(同、養豚)
 ▼房の駅農場の岩本真哉代表取締役(千葉・中房総、生産・製造・流通) ▼ON E DROP FARMの豊増洋右代表取締役(中・南房総、養蜂) ▼巨干花の大槻真一郎代表取締役社長(印旛、江戸菜) ▼沼南ファームの橋本英介取締役(柏、水稻)と、地域・業種・規模が異なるのが特徴。

房の駅農場では、今秋にも干しイモ工場を稼働させ

るほか、イチゴハウス畑と加工体験施設、養蜂場を備える食のテーマパーク「房の村」開業事業に着手。ON E DROP FARMでは市原市の広大な放棄山林と里山の再生など、農業・林業の垣根を越え、房総の里山を「Bee Friendly」な里山に再生させていく事業を展開。芝山農園では、根菜類を中心にした最新鋭の加工設備で1日当たり10トンの加工を実現、海外展開にも挑戦している

実川実行委員長(37)は「このメンバーで、これからの千葉の農業、日本の農業を盛り上げる。今までのしがらみを壊せるのは私たち。ぜひ応援してください」と、力強く決意。

斎藤農相は「若い人たちが一生懸命やっている姿には、消費者も応援したいという気持ちになると思う。統一のマークを作ってブランド化してみてもどうか」とアドバイスした。